

スポーツは人間形成に役立つか

Can sports effect the character-building?

1K05B214

指導教員

主査 山崎勝男先生

三瀬 英弘

副査 堀野博幸先生

第1章 序論 スポーツは素晴らしいのか

スポーツはオリンピック、世界選手権、高校野球、フィギア・スケートなどスポーツの持つ魅力を感じる場面が多いため、メディアに取り上げられる機会も多い。その理由として、スポーツは人に感動、夢、希望を与えてくれるものであるからだと著者は考える。スポーツは、運動をするという遊びの要素だけでなく、人間形成にも大きな影響を与えられ、スポーツの一般的イメージは良く、人間形成に良い部分しか着目されていない。しかし、最近のニュースでは、スポーツ選手の大麻事件、八百長、暴行、過度なパフォーマンスなどの犯罪やマナー違反などが目に付く。スポーツは人に良い影響を与えるだけでなく、悪い影響を与える可能性があることに気づく。そこで本論文では、スポーツの特徴を理解し、スポーツが人間形成に役立つか考えることとする。

第2章 スポーツの成り立ち

スポーツはラテン語の *portare* がイギリスに渡り *sport* と成る。19 世紀に運動競技の意味をもつ *sport* が世界に広がり国際語となる。スポーツの起源はメタ・コミュニケーションと考えられており、本来非常に根源的で平和的な行動である。スポーツは社会と関わりをもつようになり、時代とともに変化し、今では国際スポーツにまで発展を遂げる。

第3章 スポーツがもたらす良い影響

スポーツは人間形成に良い影響を与えるのか考える。体力面と精神面の 2 つに分けて考える。体力面は、8 種目のスポーツテストを運動部・スポ

ーツクラブに所属していると所属していないに分けて、その得点の差を比べた結果から考察する。精神面は矢田部・ギルフォード性格検査の場合とカリフォルニア人格検査の場合の 2 つの検査結果を見て考察する。その結果、体力、精神ともにスポーツは人間形成に良い影響を与えうる可能性があることが分かった。

第4章 スポーツ批判

スポーツが人間形成に悪影響を及ぼす場合について考える。スポーツには勝ち負けがあり、勝ち負けが魅力の 1 つであることは否定できないが、勝ちに過度な価値を置く勝利第一主義は人間形成に悪影響を与える可能性を持っている。指導者が勝利第一主義の指導をすると選手も勝利第一主義となる可能性が高い。勝利第一主義は自己利益の優先によるモラルの低下を起し、ルール違反、暴力、マナー違反、八百長、怠業、リンチやしごき、スポーツでのアンフェア、ドーピングなど悪行を引き起こす可能性をもっていると考えられる。

第5章 スポーツの複雑化

スポーツは国際的に発展を遂げたことにより、政治や商業さまざまな分野から利用されるようになった。スポーツが各分野からの影響により発展してきたことは事実であるが、ここでは各分野の利益を優先したときのスポーツに対する悪影響について考える。スポーツを政治的戦略や商業的広告などで優先することは、スポーツが人間形成に役立つために必要なフェアプレーを崩す恐れが

あり、スポーツが衰退する可能性を持っている。

第6章 結論

勝利第一主義になりすぎると、自己利益に対する執着が強くなり、フェアプレーに対する意識が低下する。それは、社会でのモラル低下にも繋がる。スポーツはフェアプレーの精神を貫くことで、人間形成に役立つ可能性がある。フェアプレーの精神は、選手だけでなく指導者からの影響も大

きい。また、選手を取り巻くスポーツ環境も人間形成に影響を与える。環境とは、選手に関わる監督、コーチ、親はもとより、企業、政治、メディアなどが挙げられる。スポーツを人間形成に役立たせるためには、スポーツに関わる人が本論文で取り上げたようなスポーツの特徴を理解する必要があり、学校教育にもスポーツの歴史、ルール、フェアプレーなどの知識の習得過程を取り入れる必要があると考えられる。